

事前復興まちづくり模擬訓練プログラム（全体版）

事前復興まちづくり模擬訓練をはじめよう！

事前復興まちづくり模擬訓練は、大規模地震による被害を想定した上で、被災後のまちづくりについて考える訓練です。ひとたび大規模震災が起こると、住民も行政も大混乱となり、まちの復興について話し合うことが難しい状況になります。そのため、日頃からの防災・減災の取組を通して、できるだけ被害を減らすとともに、仮に被災した場合でもまちをすぐに立て直せるよう、被災前から復興について考えておくことが非常に重要です。

事前復興まちづくりとは？

「想定される震災が起こる前に、その被害を見越して事前に復興まちづくりについて考えること、また被災前にできることはやっておくこと」をいいます。

どんな意味があるの？

阪神・淡路大震災の復興事業では・・・

被災して個人も地域社会も大きな痛手を負った状況では、復興に向けた話し合いや具体的な活動はなかなか進みませんでした。



それでも順調に復興できたところは、震災前にまちづくり活動を積み重ね、その経験（地域のつながりや話し合いの場）を活かして復興に取り組むことができた地区でした。

つまり・・・

被災前からまちづくりに取り組むことは、被災後の困難を乗り越え、復興を遂げるための助けになるのです。

事前復興まちづくりには、こんな効果があります！

被災前には、

- ・地域のつながりが強化され、また、まちづくりの意識を高めます。
- ・まちの防災上の課題の解消につながります。

被災後の復興時には、

- ・すぐに復興に向けた地域の体制を整えられるようになります。
- ・復興に向けた地域での話し合いを円滑にします。

「事前復興まちづくり模擬訓練」はこのような取組の第一歩！

（難しく考えず、地域清掃や防災訓練など、普段地域で行う取組の一環として実施してみてください。）

訓練の内容と進め方（訓練1、訓練2の計2回実施）

訓練の企画と準備

地域で準備をします。必要な場合、市町村職員などにアドバイスをもらいます。

- 訓練実施区域の設定と災害リスク等の情報収集
- 訓練1(まち歩き)の資料・道具を準備
- 日時・会場の設定と参加者の募集
- 訓練2(復興まちづくり提案)の資料・道具を準備



所要
3時間

訓練1（まち歩き）

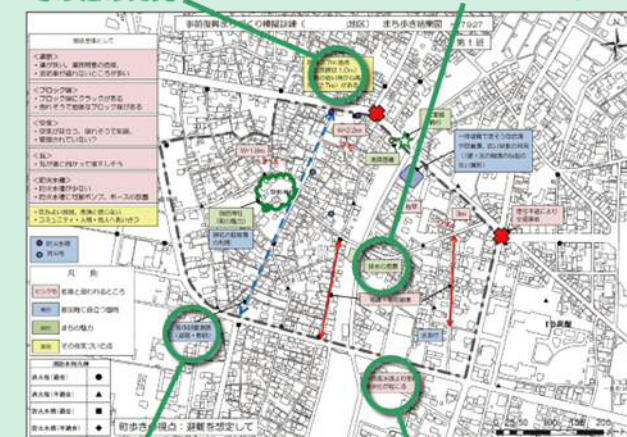
災害リスクを知り、まちの課題や魅力を確認します。

- 地区の災害リスク、訓練の目的・進め方をが「タ」で学ぶ
- 被災後のまちをイメージしながら、班に分かれて歩いてまちを探索
- まち歩きの発見（危険な所、被災時に役立つ所、まちの魅力等）を地図にまとめ、発表して全員で共有



●作成するもの（まち歩き結果図）

その他の発見 被災後も大切にしたいもの（魅力）



被災時に役立つ所 大地震や津波発生時に危険な所



所要
3時間

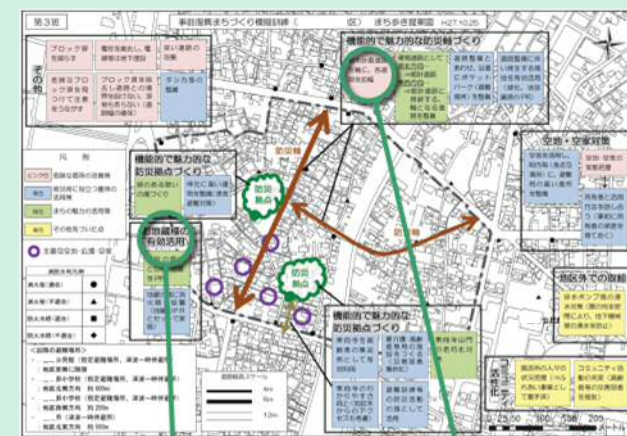
訓練2（復興まちづくり提案）

被災したまちを想定し、被災後のまちづくりについて考えてみます。

- 訓練の目的・進め方、復興まちづくりの事例等をガイダンスで学ぶ
- まち歩き結果と想定した被害状況を踏まえ、班ごとに被災後のまちづくりを提案（提案内容を地図にまとめる）
- それぞれの班が提案を発表し、参加者全員で共有



●作成するもの（復興まちづくり提案図）



地域資源の活用策 課題の改善策



訓練の後も、継続的な取組が重要です。